

《NEWS》

お知らせ!

■ 第7回遺跡発表会を開催しました

7月20日に佐倉市立中央公民館にて開催しました。あいにくの雨にもかかわらず、会場は満員となり大盛況でした。国立歴史民俗博物館教授白石太一郎先生に「竜角寺・公津原古墳群と印波国造」という題のもと、印旛地域の古墳時代について講演していただきました。熱心な聴衆より質問も頂き、地域の歴史に興味・関心を持っていただけました。



第7回遺跡発表会

■ 現地説明会を行いました

今回誌面でも紹介している縄文時代の環状盛土遺構で有名な佐倉市井野長割遺跡で、8月23日に現地説明会を行いました。地域住民の方はもちろん、県外の方や考古学の専門家も訪れ、より一層この遺跡の重要性を理解して頂けたかと思えます。

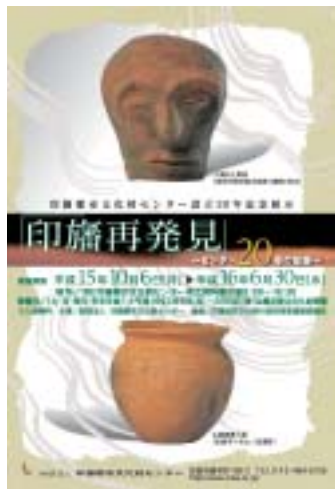


現地説明会

《ご案内》

■ 企画展 センター設立20年記念展示 『印旛再発見』～センター20年の足跡～

(財)印旛都市文化財センターは今年で設立20年を迎えました。そこで、今回は今まで調査した遺跡の中より厳選した遺物を2回に分けて当センター考古資料展示室にて展示いたします。過去に新聞を賑わせ注目を浴びた佐倉市八木山ノ田遺跡の仏面墨書土器なども展示しますので多くの皆さんの来館をお待ちしております。入館無料です。



『印旛再発見』

《発掘中の遺跡》

がんばってます!

10月～1月予定

＜成田市＞

- 台方下平Ⅰ遺跡 (弥生～奈良・平安時代)
- 大竹林畑遺跡Ⅵ (古墳～奈良・平安時代)
- 大竹井戸作遺跡 (中世)

＜佐倉市＞

- 白井屋敷跡遺跡 (弥生、奈良・平安～近世)
- 将門平台遺跡 (古墳時代)
- 江原台遺跡 (弥生～奈良・平安時代)
- 太田長作遺跡 (縄文・弥生・古墳時代)
- 井野長割遺跡 (縄文時代)
- 井野城跡 (中・近世)
- 井野坂山遺跡 (奈良・平安時代)

《室内作業》

こつちも やってます!

＜本部＞

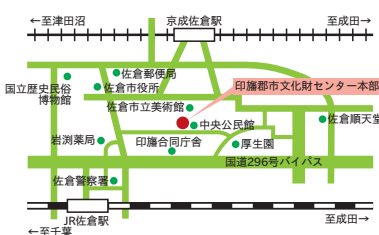
- 佐倉市錦木町198-3 TEL043-484-0133
- 南三里塚宮原第1遺跡 (成田市、旧石器時代)
- 大室仲妻遺跡 (成田市、古墳～近世)
- 井野長割遺跡 (第4次・第7次) (佐倉市、縄文時代)
- 大蛇中芝遺跡 (佐倉市、古墳～近世)
- 南作遺跡 (四街道市、縄文～奈良・平安時代)
- 谷津田遺跡 (四街道市、旧石器、古墳、中近世)
- 前原No.2遺跡 (四街道市、旧石器、縄文、中近世)
- 油免遺跡 (第2地点) (印西市、古墳～奈良・平安時代)
- 天神台遺跡 (第11地点) (印西市、弥生時代)
- 大畑Ⅰ-4遺跡 (栄町、縄文、奈良・平安時代)

＜佐倉南統合調査室＞

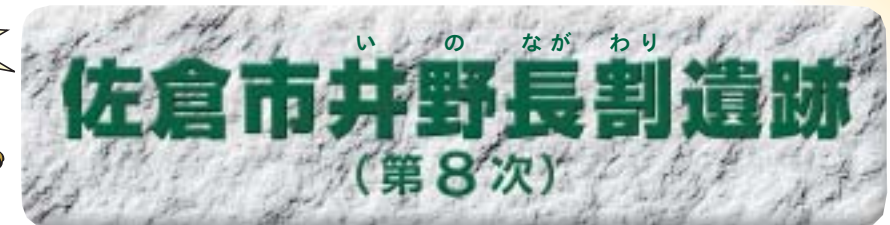
- 佐倉市岩富町538-1 TEL043-498-0765
- 井野長割遺跡 (佐倉市、縄文時代)
- 宮内井戸作遺跡 (佐倉市、縄文時代)

《お知らせ》

※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



発行・編集 財団法人 印旛都市文化財センター 〒285-0025 千葉県佐倉市錦木町198-3 ☎ 043(484)0126(代) 043(485)9871 平成15年10月15日 http://www.inba.or.jp (ホームページ) http://www.inba.or.jp/i/



左：28号土坑出土注口土器 右：9号土坑出土注口土器

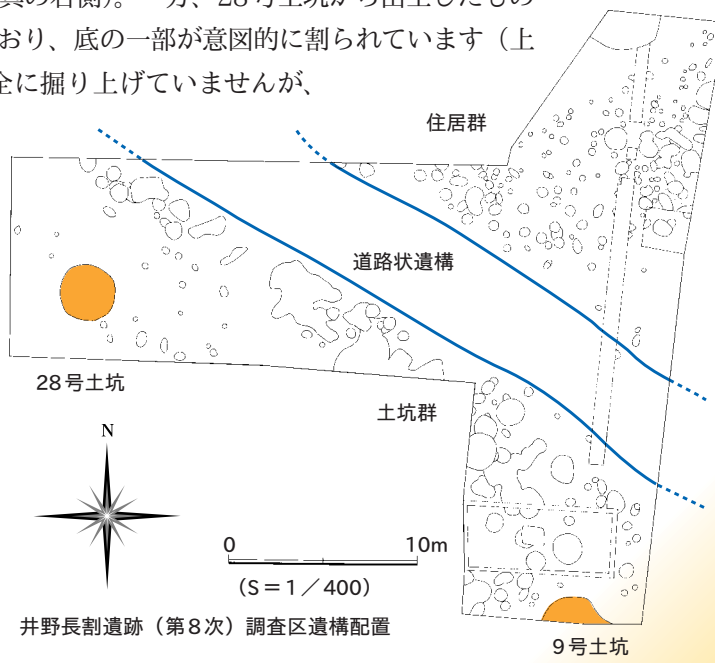
井野長割遺跡は、佐倉市の北西部、八千代市との市境付近に所在し、その一部は佐倉市立井野小学校の敷地内に位置します。この遺跡は縄文時代後期から晩期(約4,300年前～3,000年前)の集落跡で、「環状盛土遺構」と呼ばれる、縄文時代の人々が土を盛り上げてつくった高まりが明瞭に残っています。井野小学校の東隣では、この環状盛土遺構の東側半分が良く残っています。一方、西側の井野小学校の敷地内にも以前は盛土があったのですが、現在は無くなってしまい正確な範囲はわかっていません。

第8次調査区は井野小学校の敷地内で、失われた盛土遺構の推定範囲内にあたります。調査区からは、北西から南東へのびる道路状遺構をはさんで、北側に住居群、南側に土坑群が配置される様子が認められました。南側の土坑群には、調査区南東に集中する貯蔵穴と道路状遺構に沿って列状に並ぶお墓があるようです。

このうち9号土坑と28号土坑からは、珍しい注口土器(注ぎ口のある急須形の土器)が出土しました。9号土坑から出土したものは、ひょうたん形で、口の部分にふたを取り付けるための穴があげられています(上の写真の右側)。一方、28号土坑から出土したものは、東北地方の影響を強く受けており、底の一部が意図的に割られています(上の写真の左側)。2つの土坑は完全に掘り上げていませんが、

ともに深さが3m以上になると推定されます。また、これらの土器が出土した部分には灰や炭が多く含まれていました。このような出土状況や土器自体の特殊性から、何らかの特別な行為がなされたものと考えられます。

性格の不明な盛土遺構や特殊な遺物をともなう深い土坑。調査するたびに驚くべき発見がある井野長割遺跡に興味は尽きません。



井野長割遺跡(第8次)調査区遺構配置

9号土坑



南作遺跡とその周辺地域の分郡図



四街道市

南作遺跡

みなみさく いせき

南作遺跡はJR物井駅から南へ2.5km、印旛沼へそそぐ鹿島川西岸に位置します。平成9年から11年にかけて発掘調査され、縄文時代の住居20軒、土坑270基、粘土採掘坑9基、奈良・平安時代の住居151軒、掘立柱建物58棟、土坑257基、近世の炭焼き窯10基などが検出されました。今回はこの内の奈良・平安時代、8世紀から10世紀初め頃まで営まれていた集落の様子について紹介します。

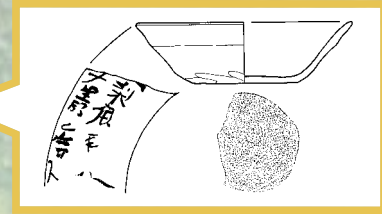
鹿島川沿いの奈良・平安時代集落の多くは8世紀後半ごろから営まれるようになります。この頃は墾田永年私財法の施行期であり、各地に開墾集落が営まれました。南作遺跡もそのような中で営まれた集落の一つでしょう。同一規模で主軸の揃う倉庫群と思われる掘立柱建物が、ちょうど鹿島川を臨むように台地の傾斜に沿って約270mに渡って建ち並んでおり、当時の眺めは壮観だったでしょう。また、その周囲に住居が建てられており、集落内の農作物などの物資を蓄える倉庫群を中心とした村づくりを想像させます。

住居や掘立柱建物からは、坏、甕などの土師器、須恵器や、灰釉陶器、三彩小壺、漆紙文書、金銅製・石製帯金具、農具などの鉄製品、紡錘車など多数の遺物が出土しました。これらの中に、27号住居から出土した「山梨郷長・大生部」と書かれた墨書土器があります。

「山梨郷」とは南作遺跡の存在する千葉郡の郷名として『和名類聚抄』に見ることができます。現在も遺跡から北へ約1.5kmの所に地名として残っており、遺跡の位置とほぼ重なります。「大生部」は聖徳太子一族の経済的、軍事的基盤を担うために全国に設置されたことに始まる氏族で、現在の印旛沼東岸の埴生郡にも設置されていました。山梨郷の長が埴生郡の大生部と関係の深い人物だったことを表すものなのでしょうか。埴生郡の郷名である「玉作」と書かれた墨書土

器も南作遺跡から出土しており、その可能性もあるかもしれません。

また、「山梨郷」は物部氏との関係が深い土地です。物部一族は東海地方との関わりが深く、「山梨郷」は静岡県にも存在します。このような背景もあって南作遺跡には、伊豆産の壺やこの地域では出土することの珍しい駿東地域の甕、東海地方で生産された灰釉陶器などが大量にもたらされたのかもしれない。もちろん静岡県や千葉県が東海道の経路上にあり、文物の流通が比較的スムーズであったということもあるでしょう。しかし、このように遺跡から出土した土器の生産地と、全国の同名の地名、その地域を治めていた豪族の背景から得られる情報がリンクすることは面白いことだと思いませんか。



27号住居出土
「山梨郷長…大生部…」
墨書土器



東海地方で作られた土器



□ …掘立柱建物跡



南作遺跡位置図